

別記第5号様式(第8条関係)

平成28年度政務活動費収支報告書

平成29年4月11日

北広島市議会議長 佐藤敏男様

会派名 平政会

代表者名 川崎 彰治 

北広島市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定に基づき、下記のとおり平成28年度の政務活動費に係る収入及び支出について報告します。

記

1 収 入 政務活動費 624,000 円

2 支 出

使途基準項目	金額(円)	内 容
研究研修費	182,056	東京オリンピックパラリンピックに向けたシンポジウムほか
調査旅費	280,894	大阪府箕面市、兵庫県三木市、兵庫県伊丹市 (11月7~9日)
資料作成費	19,308	印刷用インク代
資料購入費		
広報費		
広聴費		
要請及び陳情活動費		
合 計	482,258	

3 残 額 141,742 円

注1 内容欄は、主たる内訳を記載すること。

2 支出の使途基準項目別、支払先別の調書を添付すること。

3 政務活動費を充てた経費に係る領収書(領収書を徵することが困難な場合は、經理責任者の支払証明書)の写しを添付すること。

会派名 平政会

使途基準項目別支払調書(研究研修費)

会派名 平政会

使途基準項目別支払調書(調査旅費)

年 月 日	内 容	支出額	備考
28 11 7	行政視察(11/7~9日 大阪府箕面市、兵庫県三木市、兵庫県伊丹市・3名) 飛行機代(パック料金)	151,200	
28 11 7	同上 宿泊費(パック料金)	70,200	
28 11 7	同上 飛行機代(パック料金キャンセル料)・1名分	26,060	
28 11 7	同上 視察先お土産代(送料込み)	14,904	
28 11 9	同上 タクシ一代	6,610	
28 11 9	同上 JR等交通費	11,920	
合 計		280,894	

会派名 平政会

使途基準項目別支払調書(資料作成費)

年 月 日			内 容	支出額	備考
28	10	17	インク代	3,818	
28	8	11	インク代	3,877	
28	12	4	インクリボン代	2,770	
28	12	25	インク代	3,939	
29	2	16	インク代	4,904	
合 計				19,308	

平成28年 会派 平政会 行政視察研修報告

平成28年11月12日

三木市 報告担当 中川昌憲

1. 視察先

兵庫県 三木市

2. 日 時

平成28年11月8日 午後2時～午後4時

3. 研修テーマ

郊外型戸建住宅団地再生事業について

4. 視察者

副代表 中川昌憲

幹事長 尾崎弘人

会計担当 鈴木陽一

5. 面談者

三木市議会 議長 初田 稔 氏

三木市まちづくり部 部長 増田 秀成 氏

まちづくり部美しいまちづくり課 課長 錦 昇 氏

豊かなくらし部営業課 課長 小田 康輔 氏

主査 堂元 誠二 氏

6. 研修次第

① 初田稔議長様より歓迎のご挨拶

② 中川より受入れ御礼と当市の紹介挨拶

③ 担当部・課より研修テーマの説明

④ 質疑応答

7. 事業概要

郊外型戸建住宅団地再生への取り組みの説明を受ける

民間会社による宅地開発が施行された団地の1つ「緑が丘」があり住宅の約95%が戸建の持家住宅（賃貸は、ほとんどない）を中心とした団地で、昭和46年にまち開きされました。用途地域的には、一部の商店街を除き、ほとんどが第1種低層住居専用地域と、幹線道路沿いの一部の区域が第2種低層住居専用地域となっている。その「緑が丘」は、

- 団地南端に神戸電鉄粟生線の「緑が丘駅」、「広野ゴルフ場前駅」を有している
- 「緑が丘駅」から神戸市の中心地の「三ノ宮」までは、電車で約50分・バスで40分という位置関係にある。
- 団地中心に「コープこうべ」のスーパーが開業し、緑が丘駅前からこのスーパーまで商店街が軒を連ねている。
- まち開きの翌年に緑が丘小学校、5年後に緑が丘中学校が、それぞれ開校され

る。

- 新たに2つの近隣公園が整備された。
- 近隣に、大型工場・総合病院ができた。

など、年を重ねるにつれてハード面の整備も充実し、「住みよい閑静なまち」として発展してきた。

まち開き後の約10年間で一挙に入居されてきて、やがて、この入居されてきた方々の子供さん達が、大学等への進学期・企業等への就職期をむかえ、この「子供世代の都市部への進学・就職」による「市外転出」が、「人口減少」・「少子高齢化」という深刻な課題へと繋がっていったと考えています。

三木市は、農村部を含め10の地区から構成されていますが、「緑が丘」の高齢化率は市内で一番高く、約40%になろうとしている。

課題解消への三木市の取り組みとして 地域住民が主体のまちづくり検討会の発足へ

- 三木市では、平成24年8月、「緑が丘」の住民すべての方に、
- 緑が丘の高齢化率が進んでいる状況をご理解いただく
 - 高齢化が進むまちの将来を考える

を目的に、「緑が丘の今後のまちづくりに関するアンケート」を実施することから始めた。

見えてきた住民意識は、

- 現状の閑静な住環境を良い点と感じつつも、高齢化や、空き地・空き家の増加を心配している。
- 「緑が丘」に住み続けたいと考えている人が8割を超える一方、サービス付共同住宅などの住環境を求める方が少なからずいる。

などあります。そこで、「緑が丘町まちづくり協議会」の当時の会長と市が、緑が丘のまちづくりについて意見を交わすなかで、地域住民が主体となった、「まちづくり検討会」が必要との共通認識のもと、平成24年度末に「緑が丘町まちづくりビジョン委員会」発足された。関西国際大学で介護保険制度等に詳しい教授と市からも数名委員として参加し、また、地域でスーパーをはじめ各種住民サービスを展開している「コープこうべ」と、緑が丘の開発・住宅販売の多くを手掛けた「大和ハウス工業㈱」もオブザーバーとして参加いただき、緑が丘のまちづくりの検討が進められた。

三木市は、平成27年度に「緑が丘まちの再生計画」を策定した。

その概要は、

- ① ハード面については、「緑が丘地域内の土地利用計画策定」で、集合住宅エリア・戸建住宅エリアを設定し、その集合住宅エリアで敷地整序型土地区画整

理事業等の事業手法の課題を整理・検討すること。
としている。計画策定後の展開として

- 集合住宅エリア内で、サービス付き高齢者集合住宅等の高齢者が安心して暮らせる住環境整備を推進し（民間事業を想定）、地域内外の高齢者（特に戸建住宅エリアの高齢者を想定）に、このサービス付き高齢者集合住宅等への住替えを促進すること
- 同エリア内で、新築戸建住宅より安価な子育て世代向け集合住宅を推進し（民間事業を想定）、この地域への住替えを促進すること
- 戸建住宅エリアの高齢者が、サービス付き高齢者集合住宅等へ住替えていたいた場合、元の戸建住宅に子育て世代の流入を促進すること（住替助成制度の検討）

などを考えている。

② ソフト面については、「魅力あるまちづくり計画の策定」として、まちの再生のための各種サービス（子育て支援・高齢者支援・移動交通支援・健康管理・地域互助等）について、実現性の高いものとして検討すること。
としている。その概要は、

- 企業・地域団体・大学・市で構成する自主的な研究組織の検討を通じ、その検討内容も取り入れて策定することとしており、それに基づき今後の緑が丘でのソフト面のサービス展開を具体的に進めて行くことを考えている。

また、「魅力あるまちづくり計画の策定」に関する研究組織は、市の公募により平成27年8月「郊外型住宅団地ライフスタイル研究会」として発足し、

- 地域住民（特に高齢者・若者世代・子育て世代）に対する企業目線を含めたサービス展開についての研究・検討
- 地域サービスを行う場合の、拠点となるサテライト（地域住民が歩いて集まることのできる地域集会所的なもの）等の具体的検討
- これらの地域住民へのサービスの持続可能な運営形態の検討

等を行っていくことになっています。

現在、「健康支援」・「子育て支援」・「高齢者支援」の各サービス部会で具体的な検討が進められ、平成28年度を目途に研究成果を取りまとめる予定とのこと。

8. 考察

団地開発で急激に人口が増加した北広島市の北広島団地地区。
三木市においても、同じような高度成長の時期に開発が行われた「緑が丘」地域。

団地開発後に、一挙に入居してきた方の、その子供さん達が、大学等への進学など、また、企業等への就職で「市外転出」で、戸数は減らないが、人口が減少する。若い人が、市外へと出て行く。残ったのは、お年寄り。

一挙に開発された団地は、同じようなことが起きているのかと思いました。また、住替え住宅施策には、緑が丘の開発をしていた、大手のハウスメーカーが参画しており、民間のノウハウを期待している。当市も、不動産の取引だけでなく、ハウスメーカーや医療関係との連携で、団地の再生を考えてみる必要もあるのかなと思いました。

研修説明終了後に、「緑が丘団地」まで案内していただき、現地を視察させて頂きました。まだ、市街地を形成しているようありました。少しうらやましかつたですが、高齢化率が高いとのことでいち早く再生の道を探っているようありました。当市よりも、街並みはいいように感じました。

以上、報告を終わります。